

(平成29年 4月分)

種 類	市況の概況
(水産物部の動向) 水産物全般	<p>4月の水産物の総入荷量は、前年同月と比べ、全般に漁獲が低調であったため、鮮魚、冷凍魚、加工水産物ともに入荷量が下回り、全体で13%下回った。</p> <p>総取扱金額は、前年同月と比べ、冷凍魚は前年並みであったが、鮮魚、加工水産物は減少し、全体として6%下回った。</p>
(区分別の動向) 鮮 魚	<p>4月の鮮魚の入荷量は、前年同月と比べ、10%下回ったことから、単価は6%上回った。</p> <p>品目別には、よこわ、水かれいは入荷が上回ったため、単価は下回った。あまだい、さわら、かつお、たこは入荷が下回ったため、単価は上回った。</p> <p>5月は、天然まだいが4月に続き旬である。漁獲量が増えて、価格はお手頃なものとなり、一番おいしい時期である。また、いさき、けんさきいか、はも、すずき等もこれから夏にかけて入荷が増えてくる。貝類では暖かくなるにつれて、あさりの身が太くなり、美味しい季節を迎える。</p>
冷 凍 魚	<p>4月の冷凍魚の入荷量は、前年同月と比べ、24%下回ったことから、単価は32%上回った。</p> <p>品目別には、主要品目である冷えびや冷さけが、海外の需要が強く、単価が高止まりしていることから、国内需要が低下しており、入荷は下回った。</p> <p>5月の冷凍魚は、引き続き海外の需要が旺盛であることに加え、この時期にまとまった数量で漁獲される魚種もないことから、単価は現状のまま続くことが予想される。6月に入ればロシア海域、アラスカブリistol湾での紅さけの漁が本格化する。</p>

加工水産物	<p>4月の加工水産物の入荷量は、前年同月と比べ、15%下回ったことから、単価は3%上回った。</p> <p>品目別には、塩銀さけ、ちりめん、丸干ししゃもは入荷が減少したため、単価は上回った。</p> <p>ちりめんは、4月の漁が低調で終わったものの、5月は漁獲の増加が見込まれる。また、ほたるいかは5月下旬から6月初旬に漁が終わりとなるので、今のうちにご賞味いただきたい。</p> <p>5月は春祭りが多く開催され、祭事にはさば寿司が定番となっており、さば寿司に使われる塩さばの売上が一番多い月である。</p>
-------	--

※鮮魚には、貝類、淡水魚を含む。

品 目	市 況 の 概 要
(鮮魚主要品目)	
ま あ じ	長崎，徳島で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ2%下回ったが，単価は前年並みであった。
ま い わ し	三重，高知で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ22%下回ったため，単価は9%上回った。
さ ば	静岡，三重で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ5%下回ったため，単価は16%上回った。
す る め い か	長崎，富山で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ56%下回ったが，前年に比べ小型サイズの比率が高くなったため，単価は11%下回った。
太 物	入荷量は前年同月と比べ，めばちまぐろは32%上回ったが，本まぐろは28%，きはだまぐろは17%下回ったことから，太物類の総入荷量は11%下回り，単価は3%上回った。
び ん ち ょ う	鹿児島，宮崎で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ9%下回ったが，前年に比べ小型サイズが多かったことから，単価は5%下回った。
あ ま だ い	長崎，山口で水揚げされたもの主体の入荷で，低価格の中国産の輸入物が減少したことから，入荷量は前年同月と比べ42%下回り，単価は40%上回った。
(冷凍魚主要品目)	
冷 さ ば	国内外ともに大型サイズが少なく，入荷量は前年同月と比べ22%下回ったため，単価は5%上回った。
冷 す る め い か	入荷量は前年同月並みとなったが，新物の入荷が本格的に始まる夏頃まで，品薄状態が続くことから，単価は53%上回った。

(加工水産物主要品目)	
ち り め ん	鹿児島，大分で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ，45%下回ったため，単価は25%上回った。
塩 さ ば	入荷量は前年同月と比べ15%下回ったため，単価は3%上回った。